

# 令和5年度 姿川第二小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

## 1 教育目標（目指す児童像含む）

- (1) 基本目標  
心身ともに健康で、知的好奇心と思いやりにあふれる豊かな心を持ち、社会の変化に対応してたくましく成長し続けることができる児童を育成する。
- (2) 具体目標（姿二の子）
- |                         |         |
|-------------------------|---------|
| 健康で何事にもくじけずたくましくやりぬく子ども | （がんばる子） |
| 工夫と努力によって自ら学び続ける子ども     | （工夫する子） |
| 思いやりがあり、友達と仲良く助け合う子ども   | （やさしい子） |

## 2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

子どもは地域の宝であり、子どもたちの健やかな成長は地域全体の願いである。私たち教職員は保護者や地域と共通の目標を持ち、子どもたちが夢を抱き未来に向かって成長し続けるための基盤を培うべく、使命感を持ち、全力で教育にあたる。子どもたち一人一人がより豊かで充実した学校生活を送り、よりよい生き方を指向できるよう、地域に根差した特色ある学校教育を推進し、知・徳・体バランスのとれた力の向上を目指す。

## 3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 学業指導の充実  
○基礎・基本の定着や読解力・表現力の育成を基盤に、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業を展開し、学級を学びに向かう集団に成長させていく。
- (2) 心の教育・学級経営の充実  
道徳科を核にした心の教育や認め励ます教育をさらに充実させ、思いやり、たくましさ、自信や自己有用感などを育み、互いに認め合い励ましあえる一人一人の居場所となる温かい学級づくりを推進する。
- (3) 体力の向上・健康の増進  
○教科体育の充実、外遊びの奨励等を通して体力の増進を図る。感染症防止や望ましい食習慣、生活習慣の改善などを正しく理解し健康を維持・管理する能力、及び自らの命を守り抜くために危機を回避する能力を育成する。
- (4) 地域に根差した活気ある学校づくりの推進  
児童の主体的な活動を認め支援するとともに、地域の教育資源と地域人材のさらなる開発と活用の工夫を図る。
- (5) 社会の変化に対応する力の育成  
○英語教育、プログラミング教育、宇都宮学など、ICTを効果的に活用しながら新たに求められる教育活動を適切に展開するとともに、SDGsに係る現代的な課題等に対応し持続可能な社会づくりに向けた意識の涵養に努める。
- (6) 教職員の資質の向上  
キャリアや教職員のよさを生かした協働的運営の推進と学校業務の焦点化を図るとともに、一人一人が自覚と使命感をもって絶えず研究と修養に努め、時代の要請に即応する教育の実践を目指す。
- (7) 学校における働き方改革の視点  
学校行事の見直しなど業務を精選するとともに勤務時間を意識した働き方を推進し、地域の人材を教育活動に取り入れるなどの工夫を行う。

[宮の原地域学校園教育ビジョン]

心豊かで輝く子どもの育成 ～ほめて伸ばす（自己肯定感を高める）～

## 4 教育課程編成の方針

- (1) 本校の教育目標を達成するために必要な教育の内容を、教科横断的視野で組織的に配列する。教育内容と人的・物的資源を効果的に組み合わせ、本校の特色を生かした教育課程を編成する。
- (2) 本年度の重点課題の解決を図る教育課程を編成する。学校経営の方針を柱に、児童一人一人がのびのびとたくましく成長し、安心して学び合える温かな教育課程を目指す。
- (3) 読解力・表現力を育成するため、国語科で培った資質・能力が他教科・領域でも活用できるよう単元配置の工夫や、図書館教育との関連や教科横断的な指導を研究・実践していく。

- (4) いじめ・不登校の未然防止を目指し、楽しく活気ある学校、居心地のよい学級づくりを目指す。縦割り班活動や児童会行事等を適切に配置するとともに、時間割の工夫、教科担任制の実施などを通して学校・学年全体で取り組む体制を構築する。
- (5) 気力・体力を増進させ危険を回避する能力を育むため、日々の食育を基盤として、サーキットトレーニング・朝の一分間体操・うつのみや版ミニマム及び各種検定・「一日一回外遊び」などを継続・様々な状況に応じた避難訓練や交通安全教室等の実施を推進する。
- (6) 持続可能な社会づくりに参画できる児童の育成を目指し、SDGsの取り組みを教育活動に取り入れ、環境・人権・国際理解教育をはじめとして横断的カリキュラムの編成を工夫する。
- (7) 地域社会・文化的環境、自然環境等を生かした特色ある教育を編成する。特に、隣接する高齢者福祉施設との交流、鶴田沼の活用等を工夫する。
- (8) プログラミング教育やGIGAスクール構想、デジタル・シティズンシップ教育に伴うICTの活用、宇都宮学、外国語等、時代の要請に応じた学習の確実な実施を図るとともに、すべての学習の基礎となる読書活動を着実に推進していく。
- (9) 日課を工夫し、児童と向き合う時間や教職員の資質向上を図る時間等を確保する。
- (10) 教育課程の実施にあたっては、実施状況の把握・管理に努めるとともに、評価を通して改善・充実に努める。
- (11) 児童が確かな学力を身に付け中学校生活への不安解消を目指すために、地域学校園内の学校との連携に配慮して小中一貫教育を推進し、計画的に「地域学校園あいさつ運動」等を行う。

## 5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- (1) 学校運営
 

児童も教職員も、自分のよさを発揮しながら生き生きと活躍できる学校づくりを推進する。

  - 「ほめてのばす教育」の実践
  - 挨拶の響く学校づくりの推進
    - ・楽しい授業と居心地のよい温かな学級づくりの推進
    - ・業務の適正化
    - ・時間を意識した効率的な業務の遂行
- (2) 学習指導
 

読解力・表現力の育成を基盤に、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、「宇都宮モデル」を活用した授業を展開する。

  - 学業指導の充実
  - 各教科の基礎・基本の確実な定着と学習規律の確立
    - ・読解力・表現力の育成
    - ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
  - ICTの積極的な活用
    - ・読書指導の推進
  - 家庭学習の習慣化
- (3) 児童生徒指導
 

心の教育の充実による思いやり、たくましさ、自信や自己有用感の育成と認め励ます教育を推進する。

  - ・「気づく・考える・行動する」児童の育成
  - ・「挨拶・姿勢・清掃」
  - 規範意識の醸成
    - ・主体性を育むための縦割り班活動や異学年交流の充実
    - ・道徳科を核とした心の教育の推進
    - ・自信や自己有用感を育む学年・学級経営の工夫
- (4) 健康（保健安全・食育）・体力
 

体力の向上・健康の増進を図るとともに、健康で安全に関心を持ち、心身ともに健康で安全な生活を送るための資質や能力を育成する。

  - 望ましい生活習慣・食習慣の形成
    - ・外遊びの奨励「一日一回外遊び」
  - 教科体育を核とした基礎体力の向上
    - ・感染症について正しい知識を身に付け、健康を大切に管理しようとする態度の育成
    - ・危険を予測し、自らの命を守り抜くための判断力・行動力の育成

**6 自己評価** A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には, A拡充 B継続 C縮小・廃止, を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は, 文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

| 第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策 | 評価項目                                                                                                                                                 | 主な具体的な取組                                                                                                                                                                                                                                                                      | 方向性 | 評価                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1- (1)<br>確かな学力を育む教育の推進 | <b>A 1 児童は, 他者と協力したり, 必要な情報を集めたりして考えるなど, 主体的に学習に取り組んでいる。</b><br><b>【数値指標】</b><br>児童 90%以上<br>教職員 90%以上<br>↓<br>児童 89.8%<br>教職員 94.3%                 | ① 学習課題や発問を工夫し, 児童が意欲的に取り組む活動を設定するとともに, <u>積極的に「ほめてのばす」指導に努める。</u><br>② 本時のねらいを明確にするとともに, 話し合い学び合う場を設定し, 児童が主体的に考え表現できるように指導・支援する。<br>③ 授業の中に書く活動や伝え合う活動を位置づけ, 児童の表現する力を伸ばしていく<br>④ 根拠を明確にして筋道を立てて考え, 効果的な情報や手段を選び, 伝え方を工夫して表現することができるように指導する。                                 | B   | <b>【達成状況】</b><br>児童, 教職員の肯定的回答は, それぞれ 89.8%, 94.3%で目標を概ね達成している。<br><b>【次年度の方針】</b><br>ほめてのばす指導, それぞれの考えを伝え合う活動を積極的に取り入れ, 主体的な学びが実現できるようにする。<br>協働的学習活動を通して, それぞれの考えを伝え合う活動を積極的に取り入れ, 児童の学びの良さをほめてのばすことで, 主体的な学びが実現できるようにする。                                                                      |
| 1- (2)<br>豊かな心を育む教育の推進  | <b>A 2 児童は, 思いやりの心をもっている。</b><br><b>【数値指標】</b><br>児童 95%以上<br>教職員 100%<br>保護者 95%以上<br>地域 100%<br>↓<br>児童 92.7%<br>教職員 97.1%<br>保護者 92.2%<br>地域 100% | ① 毎週一時間の道徳科の授業を確実に実施し, 体験活動との関連を図ったり, 役割演技を取り入れたりしながら, 人を思いやる心, 生命・人権を尊重する心, 感謝の心, いたわる心を涵養する。<br>② 学級活動や帰りの会等で互いのよさががんばりを認め合う活動を取り入れ, 感謝の気持ちや自己肯定感を育む。<br>③ 人権教育年間指導計画に基づき, 全教育活動を通して人権教育を計画的に実施する。<br>④ 福祉施設(ケア・ラザ・而今)や昔遊び指導の方々との交流, 祖父母との交流給食会等を通して, 高齢者への感謝の気持ちやいたわる心を育む。 | B   | <b>【達成状況】</b><br>児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答は, それぞれ 92.7%, 97.1%, 92.2%, 100%で, 児童・教職員・保護者は数値目標を下回った。<br><b>【次年度の方針】</b><br>道徳科, 体験活動, 交流活動, 縦割り活動等の全教育活動を通して, 心の教育に継続的に取り組んでいく。<br>教職員からの認め励ます言葉掛け, ワークシートや作品へのコメント記入等を行う。<br>友達のよさを認め合う掲示物を教室に掲示し, 自尊心や有用感を高める。<br>福祉施設(ケア・ラザ・而今)や昔遊び指導の方々との交流会等を実施する。 |

|                                 |                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|---------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                 | <p>A 3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】</p> <p>児童 90%以上<br/>教職員 90%以上<br/>↓<br/>児童 89.1%<br/>教職員 97.1%</p>            | <p>① 個に応じた目標を設定できるような学習活動を設定し、それぞれが達成感を得られるように工夫する。</p> <p>② 教科の学習や特別活動において、児童が目標をもって取り組む機会を設け、検定表やキャリアパスポートを活用しながら目標達成に向けて努力する姿勢を称賛する。</p> <p>③ 児童を丁寧に観察し、発想や考え方、活動の仕方などのよさやつまずきの原因などを見抜き、児童に前向きな言葉かけをする。</p>                                                                | <p>【達成状況】</p> <p>児童肯定的回答は、89.9%から89.1%で、0.8%下回った。教職員肯定的回答は、94.4%から97.1%で目標を達成した。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>個の発達段階に応じた自分の目標をもたせ、児童の実態に合わせて励ましたり、がんばりを認めたりする指導に努めるとともに、目標が達成できるよう、具体的な指導を継続的に行う。</p> <p>児童指導委員会や学習指導委員会を適宜開催し、児童の実態把握やきまりなどの周知・支援に努めていく。</p>                     |
| 1－(3)<br>健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進 | <p>A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】</p> <p>児童 90%<br/>保護者 90%<br/>地域 90%<br/>↓<br/>児童 92.5%<br/>保護者 91.1%<br/>地域 100%</p> | <p>① 学級活動や体育、学校行事等との関連を図った保健指導や生活指導を行い、児童が自ら健康管理に気を付けられるようにする。</p> <p>② 学校給食や各教科等との関連を図った指導のもと、家庭と連携しながら栄養のバランスのとれた食事や望ましい食習慣の形成を図る。</p> <p>③ 日常における安全指導を充実させるとともに、交通安全教室や避難訓練等を計画的に実施し、児童一人一人が危機を予測し自ら命を守り抜く行動力を育成する。</p> <p>④ 学校生活における感染症防止対策を徹底し、感染の予防および感染拡大を防ぐよう努める。</p> | <p>【達成状況】</p> <p>児童、保護者、地域の全てで数値目標を達成している。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>学校の教育計画に基づき、健康や安全について、教科・領域・行事との関連を図りながら適宜指導に努めていく。</p> <p>日常指導や、安全教育を通して、児童が落ち着いて学校生活を過ごす意識をもたせるように努めていく。</p>                                                                                            |
| 1－(4)<br>将来への希望と協働する力を育む教育の推進   | <p>A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。</p> <p>【数値指標】</p> <p>児童 85%以上<br/>教職員 90%以上<br/>↓<br/>児童 88.3%<br/>教職員 97.1%</p>     | <p>① 宮・未来キャリア教育年間指導計画を見直し、より児童が自らのよさを自覚して夢や目標に向けて取り組もうとする態度を育む。</p> <p>② 学級活動や児童会活動等を通して自分の役割を明確にし、集団の一員としての自覚や自己有用感を育む活動を展開する。</p>                                                                                                                                           | <p>【達成状況】</p> <p>児童・教職員の肯定的回答は、それぞれ88.8%、97.1%で目標を達成している。様々な活動の中で、自他の良さを認め合う姿や学級、学校での役割を果たす姿を価値づけてきたことが数値指標の達成につながった。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>自己有用感を感じられる取り組みを継続して行うとともに、社会性を高められるよう、体験学習や交流活動を工夫改善しながら、特色ある教育活動を展開していく。</p> <p>児童のキャリア形成を図るため、「宮っこ『夢』教室」の実施に向けて準備をしていく。</p> |

|                                                                     |                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                 |
|---------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>2-(1)<br/>グローバル<br/>社会に主体的<br/>に向き合い、郷土愛<br/>を醸成する<br/>教育の推進</p> | <p><b>A 6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。</b><br/> <b>【数値指標】</b><br/>         児童 85%以上<br/>         教職員 85%以上<br/>                  ↓<br/>         児童 82.9 %<br/>         教職員 82.8 %</p> | <p>① 外国語活動を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。</p> <p>② 外国語の授業において、児童相互でのやり取りの場を積極的に設けることで相手を意識してコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。</p> <p>③ ALT による読み聞かせ等の機会を設け、英語に慣れ親しめるようにする。</p> <p>④ 児童が外国語を身近に触れ、表現により慣れ親しむことができるよう、外国語表記の掲示物等を置くなど環境整備を努める。</p> | <p><b>【達成状況】</b><br/>         肯定的回答は児童 82.9%，教職員 82.8 であり、目標数値よりもわずかながら低かった。</p> <p><b>【次年度の方針】</b><br/>         ALT と児童，児童同士の関わりを意識した活動を意図的に増やす。</p> <p>英語に慣れ親しめるよう，英語の歌を歌ったり，教室環境に英語を取り入れたりする。</p>            |
|                                                                     | <p><b>A 7 児童は、宇都宮の良さを知っている。</b><br/> <b>【数値指標】</b><br/>         児童 85%以上<br/>                  ↓<br/>         児童 87.7 %</p>                                                       | <p>① 生活科や社会科，総合的な学習の時間の授業や宇都宮学において，学習内容と関連させたり，児童が作成した新聞等を校内に掲示・配置したりすることで，宇都宮市のよさに気付く指導を図る。</p> <p>② 年間計 4 回の郷土に因んだ給食（宮っ子ランチ）や地域でとれるお米から，宇都宮の農産物や歴史などに触れ，食への感謝や郷土愛・食文化を育むようにする。</p> <p>③ 児童会活動，TV集会，学校長の話，宇都宮市に関するイベント等で，宇都宮市と関わりのある内容のものを取り入れる。</p>        | <p><b>【達成状況】</b><br/>         児童の肯定的回答は 87.7% で概ね目標を達成できている。</p> <p><b>【次年度の方針】</b><br/>         学習と生活の両面で横断的に宇都宮のよさに気付かせ，宇都宮市民として誇りある態度の醸成に努めさせたい。</p> <p>「宇都宮学」の年間指導計画を基に宇都宮の歴史・文化・特産物等について理解を深められるよう努める。</p> |

|                                                                 |                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-----------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>2- (2)<br/>情報社会と<br/>科学技術の<br/>進展に対応<br/>した教育の<br/>推進</p>    | <p><b>A 8 児童は、デジタル機器<br/>や図書等を学習に活用し<br/>ている。</b><br/>【数値指標】<br/>児童 85%以上<br/>教職員 85%以上<br/>↓<br/>児童 88.3%<br/>教職員 94.3%</p>     | <p>① 授業において、児童が積極<br/>的に ICT 機器を操作・活用す<br/>ることにより、コンピュー<br/>ターや情報通信ネットワーク等<br/>に慣れ親しみ、適切に活用す<br/>る能力を育てる。<br/>② 図書の活用や ICT 機器の操<br/>作をする中で、正しい情報を<br/>選択したり、適切に活用した<br/>りするなど、情報モラルの育<br/>成を図る。<br/>③ 授業における図書館資料の<br/>活用方法や司書との連携の仕<br/>方を工夫していく。<br/>④ 読書の時間や読み聞かせの<br/>時間、校内読書週間等の活動<br/>を通して、児童の読書意欲を<br/>喚起する。<br/>⑤ 図書室と各学年の図書資料<br/>の展示方法を工夫したり、お<br/>すすめの本を紹介する活動を<br/>したりすることで、児童が気<br/>軽に図書資料に触れることが<br/>できるよう環境を整える。</p> | <p><b>【達成状況】</b><br/>児童、教職員の肯定的回答は、<br/>それぞれ 88.3%、94.3%で、目標を<br/>達成している。日々の授業の中で、<br/>教職員が積極的にデジタル機器を<br/>活用することにより、児童も活用<br/>の機会が増え、適切に活用する能<br/>力が育まれている。また、司書教<br/>諭と連携して、図書を活用した活<br/>動を多く取り入れた。<br/><b>【次年度の方針】</b><br/>引き続きチャレンジ図書を推進<br/>したり、読書週間を工夫したりす<br/>るなどして、児童の読書意欲を高<br/>める。<br/>ICT 機器を授業等に積極的に取<br/>り入れ、児童が効果的に活用でき<br/>る力を高めていく。<br/>児童や教職員の図書の希望をと<br/>って、学習に役立つ図書を選定し<br/>たり、市立図書館との連携を図っ<br/>たりし、学校図書館の整備に努め<br/>る。</p> |
| <p>2- (3)<br/>持続可能な<br/>社会の実現<br/>に向けた担<br/>い手を育む<br/>教育の推進</p> | <p><b>A 9 児童は、「持続可能な社<br/>会」について、関心をも<br/>っている。</b><br/>【数値指標】<br/>児童 85%以上<br/>教職員 85%以上<br/>↓<br/>児童 89.7 %<br/>教職員 65.7 %</p> | <p>① SDGs についての掲示をし<br/>たり、世界の情勢から環境や貧<br/>困について考える機会を設け<br/>たりすることで、児童に興味<br/>関心をもたせ、身近に感じて<br/>もらえるようにする。<br/>① 生活科や社会科、総合的な<br/>学習の時間等の学習におい<br/>て、生き物や環境への関心を<br/>高め、身の回りの環境と調和<br/>しながら生活する意識や態度<br/>を育成する。<br/>② 東日本大震災をはじめとし<br/>た過去の災害の具体事例から<br/>学ぶ教材を工夫し、防災教育<br/>の充実を図る。<br/>③ 図書室の本や各学級文庫で<br/>SDGs について取り上げ、気軽<br/>に本を手にとって読むことが<br/>できる環境を取り入れる。</p>                                                                  | <p><b>【達成状況】</b><br/>肯定的回答は児童が 89.7%、教<br/>職員が 65.7%であり、児童は達成<br/>できているが、教職員の数値は下<br/>回った。<br/><b>【次年度の方針】</b><br/>教科横断的に我々を取り巻く社<br/>会情勢や環境問題に目を向けさせ<br/>るような指導の充実を図る。<br/>児童に指導するうえで、まず教<br/>職員が知識（事前調査）を高めた<br/>り、準備を整えたりすることに努<br/>めていきたい。<br/>委員会活動や児童会活動等にお<br/>いて、SDGs についての身近な取り<br/>組みを紹介したり、関連付けた活<br/>動を取り入れることで、児童や教<br/>職員が意識できるようにする。</p>                                                                                       |

|                                                                          |                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|--------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>3- (1)<br/>インクルー<br/>シブ教育シ<br/>ステムの充<br/>実に向けた<br/>特別支援教<br/>育の推進</p> | <p>A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】</p> <p>教職員 100%</p> <p>↓</p> <p>教職 88.6%</p>                                                        | <p>① 特別支援コーディネーターやSCM, かがやきルーム担当, 児童指導主任を中心として、<u>特別な支援が必要な児童に関する共通理解を図り、一人一人のニーズを踏まえた支援体制を構築する。</u></p> <p>② 校内対策委員会や校内支援委員会を適宜開催したり、Q-U研修会を実施したりして、個に応じた支援計画を再検討し、全校体制での支援を行う。</p> <p>③ 個別の支援計画に基づき、教員同士が連携しながら合理的配慮に伴う指導に努めるとともに、適切な支援が行えるよう、かがやきルームやSCの効果的活用を推進したり専門機関と連携を図ったりする。</p>                                                                                | <p>【達成状況】</p> <p>特別な支援が必要な児童については、特別支援コーディネーターやSCM, かがやきルーム担当, 児童指導主任を中心にして職員間で共通理解を図りながら、担任と共に個に応じた支援を行ってきたが、教職員の肯定的回答は、88.6%で数値目標に達しなかった。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>特別な支援を要する児童一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行っていく。</p> <p>校内対策委員会や校内支援委員会における個に応じた支援計画と、市教育センター・SC・SSWとの連携を図るようにする。</p> <p>特別支援教育に関する基本的な考え方について研修を行うなど全職員で共通理解を図り、適切な手立てを取り入れていく。</p> |
| <p>3- (2)<br/>いじめ・不登校対策の実施</p>                                           | <p>A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】</p> <p>児童 100%</p> <p>保護者 90%以上</p> <p>地域 100%</p> <p>↓</p> <p>児童 97.0%</p> <p>保護者 81.7%</p> <p>地域 100%</p> | <p>① 「いじめはどの児童にも起こりうる」との認識のもと、未然策防止の充実を図り、いじめの起こらない学級づくりや人間関係づくりに取り組む。</p> <p>② いじめを早期に発見できるよう児童が相談しやすい環境を整備するとともに、教育相談やアンケート等を通して児童理解を深め、信頼関係の構築に努める。</p> <p>③ いじめ事案の対応の際には、全教職員の協働体制と同一歩調のもとに、「組織的な対応」を心掛ける。</p> <p>④ いじめや児童間トラブルがあった際には、見逃さずに丁寧に対応するとともに、随時保護者にも連絡する。</p> <p>⑤ <u>各種便り・学校ホームページ・学級懇談・いじめゼロ集会などで学校での取組を発信するとともに、授業参観時の全校道德の実施等、取り組みの理解と周知に努める。</u></p> | <p>【達成状況】</p> <p>児童・地域住民の肯定的回答はそれぞれ、97.0%, 100%で、高い数値を示しているが、保護者は81.7%で、差が大きい。いじめゼロ強調月間の取組やいじめゼロ集会、いじめに関する道德授業等、全校体制でいじめ防止に取り組んできた。今後も「いじめは決して許されないこと」を、全教育活動を通して継続して指導していく。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>いじめの未然防止・早期発見・組織対応を心掛ける。児童が相談しやすい環境を整備するとともに、児童理解を深め、信頼関係のさらなる構築に努める。各種たよりや学校ホームページ, 学級活動, いじめゼロ朝会などを通して、いじめ防止に向けた取組を積極的に発信し、学校の方針や取組に理解と協力が得られるようにする。</p>                       |

|                                              |                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|----------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                              | <p>A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】</p> <p>児童 95%以上<br/>教職員 100%<br/>保護者 90%以上<br/>↓<br/>児童 96.0%<br/>教職員 94.3%<br/>保護者 90.3%</p> | <p>① 「学校が楽しい」「学校は居がいがある」と思えるように、教職員が、児童と温かいかわりをもつように心掛ける。</p> <p>② 学年内、学校内で行き渋り児童の情報を共有し、多角的な視点できめ細やかな早期対応を行う。</p> <p>③ 部会やケース会議等で、児童の状況に合わせて達成できそうな目標を設定して、校内資源（人や場所）及び個人用タブレット端末のクラスルームを活用しながら、組織的・計画的に支援を行う。</p> <p>④ 保護者の心情を踏まえた上で、保護者の理解や協力を得ながら支援を行う。</p> | <p>【達成状況】</p> <p>「姿二小不登校対策マニュアル」の柱「子どもの欠席に対して敏感に温かく対応～心のサインを見逃さない～」をもとに、新たな不登校を生まない取組を全校体制で行ってきた。その結果、多少の差はあるが、児童・教職員・保護者の肯定的回答は、数値指標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>子どもの欠席に対して、迅速かつ温かい対応を心掛ける。病気欠席の中に、不登校の兆候が隠れていることがあることを念頭に置き、心のサインを見逃さないように注意する。職員間で情報を共有しながら、不登校対策に全校体制で組織的に取り組んでいく。</p> <p>教育相談やQ-U検査結果を活用し、不適応傾向のある児童の早期発見と対応に努める。</p> |
| <p>3-（3）<br/>外国人児童生徒等への<br/>適応支援の<br/>充実</p> | <p>A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】</p> <p>児童 90%以上<br/>保護者 90%以上<br/>↓<br/>児童 97.3%<br/>保護者 97.1%</p>               | <p>① 一人一人の児童の人格を尊重し、児童主体の活動を展開する。</p> <p>② <u>児童に成就感を抱かせることができるように、「ほめてのばす」指導に教職員が協力して取り組んでいく。</u></p> <p>④ 今後も外国人児童や帰国子女等について全教職員で共通理解を図り、必要な支援やニーズを踏まえた支援を組織的に行う。</p> <p>⑤ 教育活動全般において、国籍や文化の違いについて正しく理解し、国籍や文化の違いを認め合い尊重し合いながら生活できるよう資質を高めていく。</p>            | <p>【達成状況】</p> <p>児童・保護者の肯定的回答は、それぞれ 97.3%、97.1%で目標を達成している。「ほめてのばす」指導をしていくことで、一人一人が大切にされている実感をもつことにつながった。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>児童に成就感を抱かせることができるように、「ほめてのばす」指導に教職員が協力して取り組んでいく。</p> <p>明るいいいさつができるよう、全校児童によるあいさつ強化週間等を設定する。</p> <p>児童が主体的に活動できるような学級活動や児童会活動、学校行事を展開する。</p>                                                                |

|                                         |                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|-----------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>4－(1)<br/>教職員の資<br/>質・能力の<br/>向上</p> | <p>A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】</p> <p>児童 90%以上<br/>教職員 90%以上<br/>↓<br/>児童 97.2%<br/>教職員 97.1%</p> | <p>① 基本的な学び方についての流れを共通理解し、分かる授業を目指して指導方法や指導形態を工夫する。</p> <p>② 授業の「めあて」や「ねらい」を明示し、児童の学習に対する意識を高める。</p> <p>③ 学習のまとめや振り返る活動を大切にするとともに、分かる喜びや「できた」という達成感を味わうことができるような授業を実践する。</p> <p>④ ペアやグループ活動での学習が深まるような指導・支援を行う。</p> | <p>B</p> <p>【達成状況】</p> <p>児童肯定的回答は、97.2%、教職員肯定的回答は、97.1%で目標を十分達成している。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>学習のめあてを明確にし、まとめや振り返りの時間を十分に確保し、学習の定着を図るとともに、個々の伸びや課題を見極め、学習指導法（少人数指導や習熟度別指導等）を工夫し、個に応じた支援の手立てを工夫する。</p>                                                                                            |
| <p>4－(2)<br/>チーム力の<br/>向上</p>           | <p>A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】</p> <p>教職員 90%以上<br/>↓<br/>教職員 77.1%</p>                              | <p>① 「チーム姿二」を合言葉に、学校の諸課題への対応や学校行事の準備・運営・改善等に教職員が助け合いながら一丸となって取り組むように努める。</p> <p>② 教職員のそれぞれの強みを生かし、互いに高めあうことのできる組織運営に努めるとともに協働性を高めることに視点を置き、困難を感じる業務や課題点について気軽に相談し、助け合える雰囲気を作る。</p>                                  | <p>B</p> <p>【達成状況】</p> <p>教職員の肯定的回答は、77.1%で数値目標に達しなかった。業務に取り組むに当たり、情報の共有が上手く機能しなかったことが考えられる。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>「チーム姿二」を合言葉に、教職員のそれぞれの強みを生かし、互いに高めあうことのできる組織運営に努めるとともに協働性を高めることに視点を置き、困難を感じる業務や課題点について気軽に相談し、助け合える雰囲気やシステム作りを進めていく。</p> <p>教科指導や学校行事等の実施において、教職員の得意分野や経験が生きる組織運営に努めていく。</p> |
| <p>4－(3)<br/>学校における働き方改革の推進</p>         | <p>A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】</p> <p>教職員 80%以上<br/>↓<br/>教職員 65.7%</p>                                      | <p>① 業務の効率的な実施や計画的な処理を心掛け、働き方改革を推進する。</p> <p>② 教職員の負担軽減に向け、学校の組織運営の改善や日課の見直し、学校行事等の精選、実施内容の見直しを行う。</p> <p>③ ICTに関する各種システムのスキルを効率的に活用し、業務の負担減を図る。</p>                                                                | <p>B</p> <p>【達成状況】</p> <p>教職員の肯定的回答は、65.7%で数値目標に達しなかった。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>勤務時間を意識して業務に当たれるように、改善を図った組織や校内システムの活用を図り、さらなる業務の効率化を目指す。</p> <p>各種行事の実施方法について、PTAや地域協議会との連携を推進していく。</p>                                                                                                         |

|                                                                            |                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                         |
|----------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>5- (1)<br/>全市的な学校運営・教育活動の充実</p>                                         | <p>A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】</p> <p>教職員 85%以上<br/>保護者 80%以上</p> <p>↓</p> <p>教職員 91.4 %<br/>保護者 76.0 %</p>          | <p>①「小中一貫教育・地域学校園」制度の検証・見直しに伴い、小中一貫の日、教職員の研修、児童生徒の交流計画などの見直しを図る。</p> <p>② 地域学校園便り等の各種便り・HP等で各部会の取組を積極的に発信していく。</p> <p>③ <u>小中で児童生徒に関する情報交換や共有、教科指導等に関する共通の取組等を推進し、9年間を見通した指導・支援を行う。</u></p>                                                                                                                                                     | <p>B</p> <p>【達成状況】</p> <p>教職員の肯定的回答は、91.4%で数値目標に達したが、保護者の肯定的回答は、76.0%で数値目標に達しなかった。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>中学校訪問が復活し、小中一貫の活動も戻りつつあるので、中学校を中核とした組織体制の見直しを図り、各部会の活動を見直すとともに、地域学校園で行っている各種活動について、地域や保護者への情報発信に努める。</p>                                      |
| <p>5- (2)<br/>主体性と独自性を生かした学校経営の推進</p> <p>5- (3)<br/>地域と連携・協働した学校づくりの推進</p> | <p>A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。</p> <p>【数値指標】</p> <p>保護者 85%以上<br/>地域 85%以上</p> <p>↓</p> <p>保護者 88.7 %<br/>地域 100%</p> | <p>① 児童にとって地域をより身近に感じることができるよう、地域の活動やPTA・育成会等の活動を紹介し啓発を図る。</p> <p>② 地域協議会や関係機関との連携を図り、地域人材の情報を集め、可能な範囲で栄養教諭や学校図書館司書との連携を図る。</p> <p>④ 各種ボランティアを依頼し、きめ細やかに児童育成を図り、ボランティアの方々の声を各種便り（ボランティアだより）で紹介するなど地域の教育力を活用した教育活動についての広報活動を充実させる。</p> <p>⑤ 教科横断的な視点をもって活動の見直しを図り、充実を図る。各学年の発達段階や教科等の内容によって系統的に実施する。</p> <p>⑥ 直接見学に行けないときはICTを活用した授業展開を工夫する。</p> | <p>B</p> <p>【達成状況】</p> <p>保護者は88.7%、地域は100%の肯定的回答を示していて、両者とも数値目標に達した。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>しもつけ民話の会による民話の会の実施などの従来の活動や、市や各種団体より来る案内等を各教科年間指導計画とのつながりを確認し、連携・協議し計画的に取り入れていく。</p> <p>地域協議会の各事業の取組を具体的に展開するとともに、交通安全や学校支援について広く周知し、地域や保護者との連携を図っていく。</p> |

|                                   |                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|-----------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>6- (1)<br/>安全で快適な学校施設整備の推進</p> | <p>A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】</p> <p>教職員 90%以上<br/>保護者 90%以上<br/>地域 90%以上</p> <p>↓</p> <p>教職員 100%<br/>保護者 91.2%<br/>地域 100%</p> | <p>① 副校長や学校業務嘱託員、機動班を中心に、日々校内外の巡視を行い、危険箇所の早期発見と迅速な対応に努める。</p> <p>② 毎月、教職員による安全点検を実施し、多くの目で危険箇所の発見と対応を行う。</p> <p>③ 危機管理マニュアルを整備し、不測の事態への備えを万全にする。</p> <p>④ 新型コロナウイルス感染症拡大防止や熱中症予防対策、インフルエンザやその他の感染症まん延予防対策など時期に応じた保健指導や管理に努める。</p> | <p>B</p> <p>【達成状況】</p> <p>教職員は 100%，保護者は 91.2%，地域は 100%の肯定的回答を示していて、三者とも数値目標に達した。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>利用する人の安全のことについて配慮するために、多くの目で日常の点検を怠らず、危険箇所を発見した場合は迅速に対処したり、時季に応じた保健指導や管理に努めたり万全を期す。</p>                                                                                                    |
| <p>6- (2)<br/>学校のデジタル化推進</p>      | <p>A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。</p> <p>【数値指標】</p> <p>教職員 85%以上</p> <p>↓</p> <p>教職員 88.6%</p>                             | <p>① 各クラスで活用できるように ICT 機器の充実を図るとともに、指導力の向上を図る。</p> <p>② ICT 機器の操作だけでなく、授業での活用を積極的に推進したり、教材やデータを共有したりすることでより効果的な活用ができるようにする。</p>                                                                                                   | <p>B</p> <p>【達成状況】</p> <p>教職員の肯定的回答は、88.6%で目標を達成している。GIGA 部会の中で、ICT 機器の操作だけでなく、授業での活用を積極的に推進したり、教材やデータを共有したりした。職員全体の研修では、ICT ツールの紹介など、多くの教職員が活用できるよう取り組んだ。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>情報教育主任や GIGA 部会を中心とした校内研修や実践報告などを通して、教職員全体に ICT 機器を活用した指導力の向上を図る。また、ICT を活用した教材やデータを学校全体で共有し、自由に活用し合える環境を整える。</p> |

|           |                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 本校の特色・課題等 | <p><b>B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。</b><br/> <b>【数値指標】</b><br/> 児童 95%以上<br/> 教職員 90%以上<br/> 保護者 90%以上<br/> 地域 95%以上<br/> ↓<br/> 児童 88.8%<br/> 教職員 88.6%<br/> 保護者 85.6%<br/> 地域 100%</p> | <p>① 教職員が率先して挨拶を行い学校全体で挨拶が日常化する環境を作る。<br/> ② 道徳科で、挨拶のよさや気持ちよさを実感できるような授業を展開する。<br/> ③ 全校児童による<u>挨拶運動強化週間を定期的に設ける。</u><br/> ④ 毎月1日を地域あいさつ運動の機会ととらえ、保護者に通知するとともに、PTAや地域と連携しての<u>挨拶運動を推進していく。</u></p> | <p><b>【達成状況】</b><br/> 児童・教職員・保護者・地域住民の肯定的回答は、それぞれ88.8%、88.6%、85.6%、100%で、全体的に低い数値を示している。明るい挨拶ができる児童が多いが、個人差もある。登下校時の交通安全ボランティアや地域の方への挨拶については、今後も意識を高めていく必要がある。</p> <p><b>【次年度の方針】</b><br/> 宮の原中学校やPTAとの連携を図り、地域を挙げて挨拶の習慣化を促進していく。教職員が率先して挨拶を行い、学校全体で挨拶が日常化する環境を作ったり、児童主体の挨拶運動を工夫・展開したりしていく。<br/> 学校だより、学年だよりを通して保護者や地域へ広く周知し、連携を図っていく。</p>    |
|           | <p><b>B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</b><br/> <b>【数値指標】</b><br/> 児童 90%以上<br/> 教職員 95%以上<br/> 保護者 95%以上<br/> ↓<br/> 児童 93.3%<br/> 教職員 88.6%<br/> 保護者 93.1%</p>                         | <p>① 「姿二小のやくそく」の共通理解のもと、全職員が同一歩調で指導をする。<br/> ② 他のクラスの問題事案とその対処法（知的資産）を全職員で共有し、他のクラスで同様の事案が起こらないように未然防止に努める。～予防的児童指導の確立～<br/> ③ <u>「できている子」「縁の下の力持ちの子」「目立たない子」を大切にして、頑張りを認めほめることで自己肯定感を高める。</u></p> | <p><b>【達成状況】</b><br/> 児童の肯定的回答は、93.3%、で目標を達成しているが、教職員・保護者はそれぞれ88.6%・93.1%で数値指標より低くなっている。全体として、きまりを守って生活しようとする児童が増えているが、一部規範意識が低い児童がおり、問題行動が見られる。</p> <p><b>【次年度の方針】</b><br/> 秩序ある学校生活が送れるよう、教職員間の情報共有と協力体制の構築を図り、継続して指導する。また、「ほめてのばす指導」を心掛け、規範意識を高めていく。<br/> 週ごとの生活目標を設定し、放送委員を活用し、月曜日の放送で周知し、帰りの会等で毎日振り返りを行うことで、望ましい生活習慣への意識を高められるようにする。</p> |

|  |                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                |
|--|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  | <p>B 3 児童は、文章を書いたり、読んだりすることを好んでいる。</p> <p>【数値指標】</p> <p>教職員 85%以上</p> <p>↓</p> <p>教職員 88.6%</p>                                        | <p>① 国語科の授業を中心に、「読む」活動の充実を図っていく。</p> <p>② 相手を意識した場面を設定し、相手にわかりやすく表現できる力を育てる。</p> <p>③ 授業の中に書く活動や伝え合う活動を位置づけ、児童の表現する力を伸ばしていく。</p> <p>A 1 ③再掲</p> <p>④ 読書の幅が広がるように、各学年の授業内容と関連した教育図書の整備拡充や新聞の活用等、学校図書館の環境整備に努める。</p>                                                   | <p>B</p> <p>【達成状況】</p> <p>教職員の肯定的回答は、88.6%で目標を概ね達成している。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>ほめてのばす指導，それぞれの考えを伝え合う活動を積極的に取り入れ，主体的な学びが実現できるようにする。</p> <p>チャレンジ図書を推進したり，読書週間を工夫したりするなどして，児童の読書意欲を高める。</p> <p>児童や教職員の図書の希望をとって，学習に役立つ図書を選定したり，市立図書館との連携を図ったりし，学校図書館の整備に努める。</p> |
|  | <p>B 4 児童は、体育の授業や休み時間に、進んで運動したり、遊んだりしている。</p> <p>【数値指標】</p> <p>児童 90%以上</p> <p>教職員 90%以上</p> <p>↓</p> <p>児童 84.4%</p> <p>教職員 91.4%</p> | <p>① <u>縄跳び・水泳・鉄棒など各種検定を実施し，各自に目標をもたせることで，意欲的に取り組むことができるようにするとともに，努力の成果を賞賛し，運動への意欲を高める。</u></p> <p>② 児童会活動等でポスターを作成したり，呼びかけをしたりして一日一回外遊びを奨励し，業間や昼休みの外遊びの活性化を図る。</p> <p>③ 「姿二サーキット」や「パワーアップ体操」の実施により，運動に親しませるとともに，基礎体力や運動技能の向上を図る。</p> <p>④ 家庭に協力を依頼して，運動の習慣化を図る。</p> | <p>B</p> <p>【達成状況】</p> <p>児童の肯定的回答が 80%を超えているが，数値目標には達していない。日課・校庭の広さなどの様々な要因が考えられる。教職員の肯定的回答は数値目標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>体育的な行事や取り組み状況に合わせて新たに運動の機会を打ち出していく。</p> <p>これまで行ってきた検定カードなどを使った教科体育の充実に関しては，継続して行っていく。</p>                                      |

|                   |                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|-------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>学校園<br/>共通</p> | <p>B 5 児童は、自己肯定感・自己有用感を育んでいる。<br/>【数値指標】<br/>児童 90%以上<br/>教職員 90%以上<br/>保護者 90%以上<br/>↓<br/>児童 79.9 %<br/>教職員 97.1 %<br/>保護者 未実施</p> | <p>① <u>学習課題や発問を工夫し、児童が意欲的に取り組む活動を設定するとともに、積極的に「ほめてのばす」指導に努める。</u>A 1 ①再掲<br/>② 学級活動や帰りの会等で互いのよさやがんばりを認め合う活動を取り入れ、感謝の気持ちや自己肯定感を育む。<br/><u>A 2 ②再掲</u><br/>③ <u>学級活動や児童会活動等を通して自分の役割を明確にし、集団の一員としての自覚や自己有用感を育む活動を展開する。</u>A 5 ②再掲<br/>④ 児童会や縦割り班活動、学校行事等の機会に、児童の発想を生かし、主体的に取り組めるようにする。<br/>⑤ <u>児童に成就感を抱かせることができるように、「ほめてのばす」指導に教職員が協力して取り組んでいく。</u><br/>A 1 3 ②再掲<br/>⑥ <u>「できている子」「縁の下の力持ちの子」「目立たない子」を大切にして、頑張りを認めほめることで自己肯定感を高める。</u>B 2 ③再掲</p> | <p>【達成状況】<br/>肯定的回答は児童が 79.9%で教職員が 97.1%だった。教職員は目標を十分達成しているが、児童の数値が低い。A 5 の質問と関連付けて考察すると、児童は、自分のよさを生かして、仲間と協力して生活していると捉えているが、クラスや学校の役に立っているという点については自信がもてていない。<br/>【次年度の方針】<br/>個に応じた指導や支援を行うとともに、個の変容を認め、称賛していくことで、自己肯定感を持てるようにする。<br/>道徳科、体験活動、交流活動、縦割り活動等の全教育活動を通して、心の教育に継続的に取り組んでいく。<br/>特別活動での児童の姿に対して学級や学年を越えて、多くの教職員でプラスの言葉掛けをしていく。<br/>特別な支援を要する児童一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行っていく。</p> |
|-------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## 【総合的な評価】

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

今年度の学校マネジメントの全体アンケートの結果を見ると、53の数値指標中、31の数値指標が上回った。また、目標に届かなかったが9の数値指標は3%以内であった。

### 【学校経営に関連する評価】

- ・ 【A 1 0】「教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」において、教職員の肯定的回答は 88.6%と数値指標を 21.4%下回った。来年度は、特別支援コーディネーターやSCM、かがやきルーム担当、児童指導主任を中心として、特別な支援が必要な児童に関する共通理解を図り、一人一人のニーズを踏まえた支援体制を構築するとともに、特別支援教育に関する基本的な考え方について研修を行うなど全職員で共通理解を図り、適切な手立てを取り入れていく。
- ・ 【A 1 5】「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」において、教職員の肯定的回答は 77.1%と数値指標を 22.9%下回った。来年度は、要請訪問や児童指導等について学級担任だけに任せず「チーム」で取り組めるように、学年やブロックの組織を生かし、声を掛け合って取り組んでいく。また、校内の問題（児童指導等）、行事等への取り組みの大変さの共通認識を持つことやよりよい協力体制の構築のために、共通理解の方法の工夫に努める。（問題の見える化（事実と手立て、その後の取り組みなどの共通理解）をし、掲示板や紙を利用した有効な発信方法を意識した工夫を行っていく。
- ・ 【A 1 6】「勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」において、教職員の肯定的回答は 65.7%と数値指標を 14.3%下回った。来年度は、業務を進めるための見通しが持てるように、仕事の進め方の計画を立て、適切に分担をして取り組めるよう計画する。また、学校行事等の精選、実施内容の見直しを行うとともに、モジュール学習の計画的な実施や総合的な学習の時間の時数の取り方の工夫に努め、長期休業明けなどにゆとりをもって業務に取り組んでいけるように努めていく。さら

に、ICT 機器やシステムの活用、校務のファイル（デジタルも紙も）の管理（作成や保存）を進め、更なるペーパーレス化やデータの活用による業務削減を図っていく。

#### 【学習指導に関連する評価】

- ・ 【A1】「児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。」において、児童、教職員の肯定的回答は、それぞれ 89.8%、94.3%で目標を概ね達成した。来年度は、課題解決の意欲をもたせるために、発問を工夫したり、児童が一人で考える活動と友達と交流したりしながら課題解決する活動を充実させ、学びの良さを「ほめてのばす」指導を行っていく。また、協働的学習活動を通して、新しい考えや別の考えに気付き、認め合う学習を推進していく。
- ・ 【A14】「教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。」において、児童肯定的回答は、97.2%、教職員肯定的回答は、97.1%で目標を十分達成している。来年度は、基本的な学び方（姿二小学習スタンダード、学習基盤づくり、授業チェックリスト）を共通理解し、落ち着いた学習環境の中で分かる授業を目指し、指導方法や指導形態を工夫する。また、授業の「めあて」や「ねらい」を明示し、児童と共有することで児童の学習に対する意識を高めていく。さらに、分かる喜びや「できた」という達成感を味わえる授業実践をしたり、授業終わりに学習のまとめや振り返り活動を行ったりすることで、児童自らが自分の学びを実感できるようにしていく。
- 【B5】「児童は、自己肯定感・自己有用感を育んでいる。」において、肯定的回答は児童が 79.9%で教職員が 97.1%だった。教職員は目標を十分達成しているが、児童の数値は、10.1%低かった。来年度は、子供に応じた目標を設定したり、個人の変容を見取って称賛したりして、学習における達成感を持ち、自己肯定感を高められるようにする。また、学級活動や児童会活動等を通して自分の役割を明確にし、それを称賛し価値づけていく場面を意図的に設定して集団の一員としての自覚や自己有用感を育む活動を展開していく。

#### 【児童生徒指導に関連する評価】

- ・ 【A5】「児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。」において、児童・教職員の肯定的回答は、それぞれ 88.8%、97.1%で目標を達成した。来年度は、自他の良さを認め合う活動や人権週間での取り組みを生かした掲示物を作成することで、自分や友達のよさを再認識し、自己肯定感や認め合う心をさらに高めていく。
- ・ 【B2】「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」において、児童・教職員の肯定的回答は、それぞれ 93.3%、88.6%で概ね目標を達成しているが、保護者は 93.1%で昨年度より低くなっている。来年度は、「姿二小のやくそく」の共通理解のもと、全職員が同歩調で指導をするとともに、きまりを守ろうとする姿勢や頑張りを認め、ほめることで規範意識を高めていく。
- 【B5】「児童は、自己肯定感・自己有用感を育んでいる。」において、児童・教職員の肯定的回答は、それぞれ 79.9%、97.1%で、児童は数値目標を 10.1%下回った。来年度は、児童会や縦割り班活動、学校行事等の機会に、児童の発想を生かし、主体的に取り組めるようにする。また、学級や学年を越えて、多くの教職員で児童の考えや行動を価値付けていく言葉掛けをし、集団の中での自己有用感を高めていく。

#### 【健康（体力・保健・食・安全）に関連する評価】

- ・ 【A4】「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」では、児童 92.5%、保護者 91.1%、地域 100%で数値目標を上回った。来年度は、健康や安全について、教科・領域・行事との関連を図りながら適宜指導に努めるとともに、さくら連絡網を積極的に活用し、学校生活における感染症防止対策を周知し、感染の予防および感染拡大を防止する意識を高めていく。
- ・ 【B4】「児童は、体育の授業や休み時間に、進んで運動したり、遊んだりしている。」では、児童の肯定的回答が 84.4%で、数値目標を 5.6%下回った。来年度は、縄跳び・水泳・鉄棒など各種検定を実施し、各自に目標をもたせることで、意欲的に取り組むことができるようにするとともに、努力の成果を賞賛し、運動への意欲を高めるとともに、児童会活動で、様々な運動機会を提供する取り組みを考えて行っていく。

#### 【情報メディア・GIGAに関連する評価】

- ・ 【A8】「児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。」では、児童、教職員の肯定的回答は、それぞれ 88.3%、94.3%で目標を達成した。来年度は、授業において、児童が積極的に ICT 機器を操作・活用することにより、コンピューターや情報通信ネットワーク等に慣れ親しみ、適切に活用する能力を育てたり、図書の活用や ICT 機器の操作をする中で、正しい情報を選択したり、適切に活用したりするなど、情報モラルの育成を図ったりしていく。
- ・ 【A20】「コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができる。」では、教職員の肯定的回答は、88.6%で目標を達成した。来年度は、情報教育主任や GIGA 部会を中心とした校内研修や実践報告などを通して、教職員全体に ICT 機器を活用した指導力の向上を図るとともに、ICT を活用した教材やデータを学校全体で共有し、自由に活用し合える環境を整えていく。

## 7 学校関係者評価

- ・ 「さすがに」読書郵便の取組がとても面白いと思った。
- ・ 読書週間での取組や縦割り班での活動について、子供が家で楽しそうに話をしていた。
- ・ トイレの環境がとてもよくなった。
- ・ 生活面でも学習面でも、日々、丁寧に児童に向き合ってくださっていると感じる。コロナ禍後、行事は今くらいの内容で十分に思う。負担のない程度で続けていただき、過度な準備や練習、次第はなくしていただきたい。
- ・ 孫が本校に入学した。初めての給食がカレーで大喜び。子どもの心をつかんでくれた。
- ・ 孫を迎えに行くことがあるが、挨拶をしてもあまり返ってこない。安全ボランティアの方には、挨拶ができています。よく知らない地域の方へも挨拶ができるような子ども・地域にしていきたい。
- ・ ボランティアを増やすために、外部等への呼びかけを行っていく
- ・ 個別支援をする姿（学生による支援）を見て、様々な対応をしてもらえていることが分かった。

## 8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- 恵まれた教育資源や地域人材との連携を深め、本校独自の取組や特色ある教育活動を推進していく。
- 地域学校園の重点目標の、自己肯定感を高めるための「ほめてのばす教育」の取組や「あいさつ運動」等の取組を継続・充実していく。
- 校内において明るい挨拶ができる児童が多いが、個人差もある。場に応じた挨拶として、教職員が先取り挨拶を励行し、児童に手本を示していきたい。登下校時の交通安全ボランティアさんや地域の方への挨拶については、高い評価だったが、今後も意識を継続して宮の原中学校やPTAとの連携を図りながら地域を挙げてあいさつの習慣化を促進していく。
- 今後も タブレット端末をはじめとする ICT 機器を効果的に活用しながら、「分かる授業」や「主体的・対話的で深い学び」の展開、さらには「学業指導」の充実を図っていく。また、学校図書館使用を含め、様々な方法で課題に主体的に学ぶことの楽しさや友達と関わることの心地よさを味わいながら、児童一人一人が生き生きとした学校生活を送れるようにする。
- ・ いじめ対策については、未然防止・早期発見・組織対応を心掛け、児童が相談しやすい環境づくりをするとともに、児童理解を深め、信頼関係のさらなる構築に努める。各種便りや学校ホームページ、学級懇談、いじめゼロ集会などを通していじめ防止に向けた取組を積極的にしていく。
- ・ 登校班の編成課題の対策や登下校中のトラブル防止等、地域や保護者、児童安全協力ボランティア等との連携を大切に、学校・保護者・地域が一体となって、児童の健全育成に尽力していく。
- ・ 今年度もPTAや地域の協力を得ながら、創立150周年記念式典、運動会等、さまざまな教育活動を展開することができた。今後も、児童や保護者、地域の方々の御支援・御協力を賜りながら、教育活動を推進していこうと考える。